

15

Yuri's Talk
Feb 2006 Vol.15

ゆう ゆう
由 友



「浅間山」

作者不詳

事務応接室に展示中

題字 高野一彦氏



オーダーリングシステムの導入にむけて、平成15年4月より情報システム管理委員会が当院に設置され、委員長に任命された。パソコンとインターネットを少しは使っているものの、詳しいわけではなく困惑したが、まず、委員会の体制作りに取り掛かった。幸いなことに、本所の企画電算課に以前所属していた佐々木新君が保健活動室係長でいたので、早速加わってもらった。すでにJAでは、平成13年より9病院合同のシステム委員会が始まっていたが、佐々木係長にはそれにも参加してもらい、以後本所との連絡、その後に決まった富士通との様々なやりとり、

病院全体の取りまとめなど、中心となって進めてもらった。昨年7月の導入が思ったよりスムーズに終了できたのも彼のおかげであり、今回の最大の功労者と感謝している。また、事務的なことでは沓澤次長がいろいろと頑張ってくれた。オーダー発信元となる医局は、何事も新しいことを始める際にまともな難しい部門だが、大学でオーダーリングの経験のある菅原外科科長に医局全体と外科系の取りまとめを、黒木内科科長に内科系の取りまとめをお願いした。委員会は一時期週2回以上に及んだが、忙しい中、両先生が積極的に会議に参加し、可能な限り協力してくれ



情報システム管理
委員会委員長

海法 恒男

オーダーリングシステムの導入



たお陰で、医局全体として動くことが出来、有難かった。

看護部門は小林ふみ子師長、佐藤田鶴子看護副部長、外来部門は細谷せつ子副師長を中心に人選してもらった。他部門は検査・放射線など、部門ごとのシステムとの接続の問題もあり、それらに関係した方々を自薦してもらった。

委員会の活動は、平成15年度は院外でJAの準備委員会、各ワーキンググループへの参加の他、院内でLANを計画した。院内LANは当院で遅れている部分であり、オーダリング導入前に医療スタッフ、特に看護部門のコンピュータ操作技術の向上やコンピュータに不慣れな人たちのアレルギー除去の面からも、整備が急がれた。目途がついた予算に限りがあったため、外来までは届かず、医局の各先生方と結ぶまでは至らなかったが、全病棟と看護部長室を結ぶことにより、看護関連業務のシステム化（看護計画作成・褥創計画・各PAS・オーダリング導入までの病棟看護日誌など）の他、各病棟単位にコンピューターを使った看護研究などが可能となった。



スムーズなオーダリング導入のための看護支援業務の準備・練習という意味でも、院内LANは大いに役立ったと考えている。

その後の委員会の仕事は、平成17年7月からの導入に向け、逆算されたスケジュールに沿って進行し、会議の回数も多くなった。平成17年に入ると、先に導入した平鹿病院を見学し、湖東病院のリアルサルを観に行きつつ頻回の会議



オーダリング システムの導入



を重ね、3回のリハーサルを行った。1回目のリハは委員主体で小規模に行い、2回目がすべての外来が対象となるメインのリハとなった。大人数が関わるためいろいろ心配したが、大きな混乱もなく終了し、ほっとした。これまで2回の病院機能評価受験の時も感じたが、この病院のスタッフの一生懸命さや協調性・底力を改めて実感した。監視役の富士通SEからも「これだけの規模でこのスムーズさは…」とお褒めの言葉をいた

だいた。当院の協力体制の良さは医局を含めた全体のトレーニングの出席率にも現れた。委員や各職場から委員会に出てくる意見に否定的なものは驚くほどなく、殆どが何とか不都合を改善しようという建設的意見だった。その後は皆さんご存知のとおりだが、平成17年7月1日導入後も大きなトラブルがなく半年が経過している。

そもそも一社の電子カルテの一部であるオーダリング部門を抜き出して適応させたための技術的制約や、厚生連9病院共通仕様のために個々の病院の要求に対応しづらいなど、様々な不具合があると思うが、現場から具体的に改善点を挙げてもらい、根気よく要求して使いやすいものに変えていく努力がこれからも必要と考える。一方で、まだ不十分な院内LANの充実が必須である。LANを外来や各部門、医局の個々の先生方のパソコンとつなげることにより、事故報告や栄養サポート(NST)、感染防止など職員間の横断的コミュニケーションが迅速にはかれるようにしなければならぬ。予算の面も含めて、関係各位のご理解・ご協力が望まれる。





皆様お疲れ様でした!



情報システム管理委員会
佐々木 新

システム導入より半年が経ちましたが、“導入すれば終わり”というわけでもなく、7月以降診療・請求の現場で皆様の悪戦苦闘が続いていたと思われます。我々システム委員も同様です。でも、きりがないので、ここで一旦“まずは、お疲れ様!!”ということにしていいたいですか?

「導入前後の苦労話でも…」と依頼された文章ですが、職員皆様の協力を取り組んだ操作訓練やリハーサル以前に、我々委員会がシステム導入に向けて取り組んできた流れを簡単に振り返ってみようと思います。

平成13年

オーダリングシステムを採用

厚生連では各病院から委員を招集し将来の情報システムの形を探る。結果、オーダリングシステムを中心として部門システムとの連携を図るシステムを採用することとした。

即電子カルテという案もありましたが、段階的に整備し将来的に電子カルテを目指すという結論でした。

平成15年

当病院委員会開催

当院の「情報システム管理委員会」が開催され、オーダリング導入に向けた看護部教育のための院内LANの整備を検討する。

オーダ内容詳細を決定する、9病院職種別代表者によるワーキンググループが開催される。

院内LANは11月に整備され、12月から稼働。看護部システム委員会を中心に運用・パソコン操作学習会がスタート。

ワーキンググループ(当委員会委員のほとんどが対象)は秋田・JAビルにて2週間に1度のハードスケジュールで開催されました。

平成16年

当院導入にむけた詳細検討

テスト病院である平鹿総合病院にて詳細設計が終わり、各病院にて内容確認する。

当病院での現在の運用との擦りあわせが必要なため、確認・検討作業が始まりましたが、実際の画面を見た事もなく、莫大な資料を抱え、手探り状態で検討を続けました。

平成17年

導入作業キックオフ

1月、富士通SE部隊との具体的な導入打合せが開始。詳細スケジュール、病院検討事項、各種マスタ設定、訓練、医事課患者情報の移行などの打合せが毎週1回のペースでスタート。

3月、LAN工事始まる。病棟は平日日中、外来は土(稼働日はpm)日に作業を続ける。5月連休明けまで続く。

この頃は、各委員とも次回委員会まで1週間で決定しなければいけない事項が山積みでした。

以上が、操作訓練・リハーサル実施までの当委員会の取り組みです。

この間、委員のみならず各部署でマスタ作成、データ移行の為に夜遅くまで協力していただいた皆様、本当にご苦労様でした。看護部システム委員会の皆様もお疲れ様でした。



佐藤看護部長の思い出



由利組合総合病院に42年間、振り返ることのできないほど長い期間お世話になりました。
白衣を脱いで早1年になろうとしております。

今年は記録的な大雪で仕事のない私に除雪せよと、大仕事をプレゼントされ悪戦苦闘中です。

旧病院にて60周年記念日を祝い、新病院にて10周年を迎えることができ数えきれない多くの体験をさせていただきました。又、多くの方々との出会いを通して成長させていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。辛かったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと……等々、一つ一つの経験が私の人生の糧となり42年間支えてくれました。

良き先輩、後輩、同僚に恵まれ、共に育ち傾聴し合い、共感する。終つてみると、その時、その時、その場面、場面で最善を尽くし各々の目標達成に向けて皆さんと一緒に一歩





一歩歩むことができた結果に、今満足し充実感に満たされて日々を送っております。

私の就職した時代に、病院の大講堂に、

”最高の医療を最低の医療費で
恵まれない地域住民のために

犠牲的、奉仕的、精神で

“ というスローガンがありました。先人の方々が現病院をイメージして唱和し、その精神を継続的に実践された結果が、今の病院に生かされていると思っております。

東北初の医療機能評価機構の認定病院で働く職員としての誇りと、自覚をもち、さらに患者本位の地域住民より信頼され選ばれる病院創に期待し皆様方の御活躍をお祈りいたします。

佐藤厚子



渡邊新看護部長
あいさつ

美しく、正しく、
美しく。



看護部長
渡邊 美名子

新年明けましておめでとございます。皆様にはいつも当院を気にかけていただきまして、ありがとうございます。

年末から新年にかけて、車両災害事故、記録的な豪雪による交通マヒ、生活マヒ、仕事マヒ…といろいろと寸断された日々が続き、大きなストレスを抱えながらの平成18年の幕開けとなりました。しかし、本荘由利地区では幸いにも大きな影響は無かったかと推察します。そして、当職員の出勤体制も個々の努力で休む事も無く平常通りに出来ました。病院は選んで頂く患者様が居てもらってこそですが、職員あつての病院でもありますので自然災害は大変脅威に感じております。

かくいう私は、昨年4月に佐藤厚子前看護部長から役割を引き継ぎ、椅子の座り按配を気にかけているうちに、まもな

く一年目を迎えようとしております。ゆえに、皆様に支えられて落ちこぼれることなく新年を迎えることが出来たことを深く感謝申し上げます。

新年を迎えるの抱負

当院は新病院築後11年目に入りました。新病院のビジョンである癒しの環境造り、入院生活でのQOLの向上などを含めたスタートでしたが、月日を経て今、充実した所と贅肉の部分、機能を低下させている所など課題も見えてきました。今一度原点に戻り、看護部の持てる力を発揮するため体力強化に励み、時代にマッチした効果的運用を考えたいと思います。

看護部では毎年、病院事業計画を共有し、看護部事業計画・目標管理で看護の質を高める取り組みをしていますが、昨今、医療を取り巻く環境の変化はめまぐるしく変化し、看護に求められることも多様化してきております。提供する医療側としても常にそこを乗り越える努力が必要となり、職員一丸となって取り組まなければなりません。そして、平成19年度には3度目の日本医療機能評価受審の予定でもあります。平成18年度の看護部の活動はこれらを見据えて再考し、看護部理念から方針・看護目標含め、看護配置など抜本的な見直しの必要性を感じております。

重点項目の基本は病院目標に沿つこと

ですが、医療事故防止対策、院内感染防止対策、患者様の納得した医療と退院支援、健全な病院経営に資する取り組みの強化などがあります。これらを効果的に実践するためには看護機能の充実が必須であり、看護倫理をしっかりと身に付けた行動であることも重要となります。看護の専門性を磨くチャンスを作つて看護実践に反映させ、ケアの質の確保と経験の積み重ねで充実を図り、看護部の強みを高めていきたいと思っております。そのためにも、職員が志気を高めて元気に働ける職場環境づくりと、患者様の満足が職員の満足に繋がるように、双方影響し合える支援をしていきたいと考えます。

”**深く正しく美しく**”

深く…理念、倫理観、チームワーク
正しく…医療安全、感染予防、経営、公
正、情報、教育、自己啓発
美しく…看護観、接遇、環境、態度、感性

仕事をやる上で、この3つの項目を信条にして心がけ、地域の中核病院としての医療の進歩に対応し、自覚と誇りを持った責任ある仕事を遂行できるように日々努力、精進したいと思っております。

これからも応援の程宜しくお願い致します。

齋藤新診療部長
あいさつ

質の向上で、 患者に利益を。



放射線科
齋藤 裕

私は昭和54年の卒業で放射線科の医師として27年目（年齢は51才）に入る。昭和62年12月16日に当院に赴任し、19年目になる。当院ではかなり古巣の部類にあたる。秋田市内から通勤している。今年の大豪雪で通勤に疲労困憊している。比較的大規模病院の「1人科長」として悪戦苦闘し、増え続ける仕事量に悲鳴をあげ、やがて干上がってしまつような状況下で、平成17年4月に診療部長を命ぜられた。本来診療科として認知されていない科であり、当院で診療科として認知されたことに対しては非常にうれしく思っている。

日本は人口当たりのCTやMRIの台数は世界一である。これからPETもそうなるかもしれない。不思議な国である。現在放射線科を取り巻く状況はすつかり

様変わりしている。CT、MRIが登場し、かつ毎年のように機能が高度化していった。CTが聴診器代わりの検査になりつつある。放射線治療においてもコンピュータ制御の高度な照射法が開発された。さらにIVRもすつかり日常に受け込んだ状況である。

秋田県内の放射線科医の数は極めて少ない（約35名、うち大学14名）。大半は秋田市内に勤務しており（いなかの都会志向？）、秋田市以外には、僅か5人しかない状況である。ちなみに厚生連9病院で、放射線科医がいるのは4病院のみである。平鹿総合病院では、東北大学が撤退し現在放射線科医はいない。現行の新臨床研修医制度では、内科、外科を中心としたものであり、放射線医学や放射線科医にふれる時間が減り、今後放射線科医が増えることは極めて少ないだろうというのは、容易に想像できることである。

当院での放射線科の仕事内容をあえて申し上げます（知らない人がいるかもしれませんが、頭部を除く）、放射線治療、血管造影（頭部以外、IVR含む）、核医学検査となっている。放射線治療患者、年間100人程度、核医学検査、年間800人程度、血管造影、年間80人程度である。仕事の大半（80%）は、CT、MRIの読影に費やされ、シャーカステン、画像診

断モニターと1日いっぱい格闘している。私が放射線科医として常に心がけていることは、診断の精度向上、診断レポートの迅速化、予約待ち日数の短縮（CT、MRIの検査件数増加（病院収益に寄与））、造影剤事故対策、造影剤使用同意書、放射線被曝抑制などである。研修医がふえて無駄な検査（CT、MRI）が1割程度増えたと実感しているが、やむを得ない事かもしれない。

原稿の依頼内容は「新部長としての抱負」であつたが、趣旨からそれしつめた。近年、医療界は次々と構造改革の対象となつており、度重なる医療制度改革、複雑に過ぎる医療情勢の変化に対応し、そのつど選択し決断していくのは本当に大変である。基本的に病院は利益をあげなければならぬ。利益はハード、ソフト両面の投資を可能にし、医療の質の向上に直結する。医師はどの立場にあつても、病院の利益は医療の質の向上をもたらす、その結果、患者に利益をもたらすという循環を認識すべきであると思われる。



February
2006

ふれあい

日曜日

民謡のつどい



6月中旬に由利高校民謡部の皆さんによる民謡のつどいが講堂で開かれました。2、3年生のきびきびとした動きと初々しい新入生がそれぞれのパートをこなしており、全体として調和のとれたすばらしい歌と踊りを披露してくれました。高齢の方のみならず若い患者さんたちも熱心に最後まで聴いてくれました。

クリスマスコンサート



サマーコンサート



9月中旬にサマーコンサートが正面ホールで行われました。秋田県出身の林由佳さんと後藤純子さんの共演によるものでした。すばらしいピアノ演奏と声量豊かな歌がホール一杯に響き渡りました。地元出身の方が活躍されている姿を見ると嬉しい限りです。

中学生ボランティア



「看護の心」をあなたに



ナイチンゲールの生誕を記念し、5月12日に「看護の日」が制定されました。毎年5月には、「看護週間」として看護協会を中心に各地で様々なイベントが開催されています。当院でも毎年5月に、来院される方々に対して血圧測定や健康相談、介護相談などを実施しております。

今年も、5月17日～19日に正面玄関ホールで実施し、延べ256名の参加がありました。相談内容としては、自分の症状的なこと、認知症の家族介護の悩み、褥瘡の処置方法、自宅での創部処置用品に要する金銭

12月中旬に恒例となったクリスマスコンサートが正面ホールで行われました。本荘高校吹奏楽部の50名近い大勢の皆さんが患者さんのためという事で集まってくれました。年中行事としてこの日をめざして毎日練習してくれた演奏は年々、熟成されていくようです。今年は、なつかしいヒットソングに振り付けを加えて大いに盛り上がりました。入院していた患者さんにとって何よりのクリスマスプレゼントになったことでしょう。

面の問題、介護保険の学習の講師はどこにお願いすればよいか等、多岐にわたっています。その中で医師、看護師への感謝やお礼の言葉を頂き、又苦情等も受けながら3日間という短い期間ですが、地域住民の方々の生の声を聴ける良い機会であり、病院を理解して頂く上で貴重な時間と捉えております。

より良い看護サービスの提供に繋がることを期待して、参加した看護師も「看護の心」に立ち返った3日間でした。



夏休みと冬休みになると、大勢の中学生ボランティアの皆さんが訪れられます。短い時間ですが、患者さんとの触れ合いから何かを感じてくれたら有意義なことです。

さようなら、

伊東婦長さん

長年、当院において勤務された伊東婦長さんが逝去されました。小児科病棟、脳卒中・内科病棟、リハビリ病棟そして消化器病棟でがんばってこられました。特に、新病院でのリハビリ病棟の発展には多大な努力を払われたのが記憶に残っています。ご冥福をお祈りいたします。



病院祭 2005

恒例の11月第二土曜日に、病院祭が開かれました。いつものように、各部会に分かれて職員一丸となって日頃の感謝の意を込めてがんばりました。演奏では、石沢小学校に始まり、JAしんせい女性部の皆さんの歌と踊り、尾崎小学校、平沢小学校、新山小学校そして南中学校の各吹奏楽部による演奏で午前の部を終えました。同時に救急隊による救急蘇生実演コーナー、

職員有志による餅つき、お茶コーナー、チャリティバザー、JA物産即売、介護用品健康相談コーナーなども例年どおりの盛りだくさんの内容でした。外では焼き鳥、焼きそばも行い盛況でした。午後は、辻田与五郎さんの講演があり、仁賀保高校吹奏楽部の皆さんの演奏で幕を閉じました。



もちつき



JAあきたしんせい女性部



南中学校吹奏楽部



尾崎小学校吹奏楽部

平沢小学校吹奏楽部





チャリティーバザー



押し花



作品展



レントゲン



お茶



救急隊



わたあめ



講演会
辻田与五郎さんの



新山小学校吹奏楽部

仁賀保高校吹奏楽部



石沢小学校民謡クラブ



TOPICS

トピックス

TOPICS 01 いなほCLS

由友の皆様こんにちは、今日は「いなほCLS」について、いなほCLS実行委員会を代表して組合病院の麻酔科高橋が御案内させていただきます。

さて、「いなほCLS」とはどんなものかと申しますと、勘のいい皆様方のことですからもうお気づきのことと思います。「米の秋田は酒の国、美人を育てる秋田米」ですから、「いなほ」は秋田県を表すシンボルマークです。それに救急救命体制を表す「CLS」をくっつけた訳ですから、秋田県の救急をみんなでやるつ会！ということになります。

やっている事は、日本救急医学会認定のICLSコース（心肺蘇生コース）、院内だけでなく地域の医療従事者の方々も対象としたAED（自動体外式除細動器使用法）講習会などです。です



院内AED講習会修了書

(名刺サイズ)

が、講習会と言ってもお偉いさんがいらして有難いお話を聞かせてくださるという講演会型ではありません。参加される方々に、自ら汗を流していただく実習型の講習会です。受講された方々、一人一人に手取り足取り、ご

説明、ご指導させて頂いています。ですから、受講者の方が24人なのに、スタッフは60人以上となる時もあります。また、堅苦しくない講習会を目指していますので、グループ分けの名前も、「あきたこまち」、「サニシキ」、「めんこいな」、「ひとめぼれ」としています。（これは大館消防の救急救命士さんが名づけてくれました）

実は、もう一つ、「いなほ」と命名させて頂いた理由があります。それは、「特急いなほ号」に肖つてのことです。先ほども申しましたように講習会を開催するには多くの方々の協力が必要です。由利本荘地区は元より県内のスタッフだけではとても足りません、そこで、日本海沿いの県を結ぶ特急いなほ号に乗って、新潟、山形、秋田、青森県の方々に応援に来てもらおうというもの。（実際はこれ以外に宮城、岩手県からも来ていただいています）昨年未いなほ号が脱線事故を起こし、多数の方々が死傷されるという傷ましい事がありました。そんな中、現場に向いた病院関係者、消防関係者の方々は、日頃いなほCLSと同じような講習会を通じて顔見知りになっている仲間たちだったので、スムーズな活動が出来たことでした。こういつた「人と人のネットワーク」が出来たらいいなと願って名付けました。来年は、秋田わか杉国体が開催されます。これに合わせて多くの方々が由利本荘地区にもみえることと思います。「安全な国体だった」と言っても

らえるような救急活動をしてゆきたいと思っています。院内、由利本荘地区のスタッフの皆さんは勿論、由友の皆様も是非ご協力をお願いいたします。

最後に一つ、実は、「いなほCLS」にロゴマークがあります。禾の数を数えて見てください。県内に厚生連の病院がいくつあるかわかりますよ。

TOPICS 02 救急オリエンテーション

6月に救急オリエンテーションが講堂で3日間開かれました。医師のみならず、新人職員の救急に対する啓蒙、教育のために担当科の医師および救急隊、救急室から発表してもらいました。救急の充実がこれからの大きな課題です。



T O P I C S

トピックス

TOPICS 03 脳卒中フォーラム

1月に脳卒中フォーラムが講堂で開かれました。当地区は依然として脳卒中多発地域です。脳卒中に関わるさまざまな問題について発表してもらいました。特別講演では、秋田脳研の鈴木先生から県内の脳卒中の現状とこれからの対策について話していただきました。



TOPICS 04 高齢者療養フォーラム

2月に高齢者療養フォーラムが講堂で開かれました。介護保険制度が始まってからの問題や、療養病棟を有する各病院から発表してもらいました。これから、介護保険制度の行く末がとても心配な状況です。



TOPICS 05 感染症フォーラム

9月に感染症フォーラムが講堂で開かれました。新興感染症と呼ばれるものが増加する一方で、すみやかな情報収集と対応策の確立が不可欠です。当地区の感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、感染症フォーラムを定期的に関催しています。



TOPICS

トピックス

TOPICS 06

インフルエンザセミナー

新型インフルエンザの到来についてWHOが警戒宣言を出しました。いつ新型インフルエンザが襲ってくるかわからない状況の中、正確な知識を覚えてもらうと、診断、ワクチン、タミフルについて各専門家に来てもらい講演をしてもらいました。多くの医療関係者が集い、熱心に聴講していきました。できれば、SARSのように来ないでほしいと祈っています。



TOPICS 07

院内学術発表会

12月の第一土曜日の午後、院内学術発表会が開かれました。医師のみならず、コメディカルの発表の場として毎年開かれているものです。各部門の日頃の研究成果が披露され、熱気のコもった時間が過ぎました。新しく一員となった研修医たちも熱心に聞き入っていました。



TOPICS 08

看護学校実習生

新しい由利本荘看護学校からの初めての実習生が当院を訪れました。日頃の講義とは違い、患者さんと接する初めての機会ということで、皆、真剣なまなざしで取り組んでいました。



T O P I C S

トピックス



6月から7月にかけて、秋田大学から地域包括実習ということで6名の学生さんが当院を訪れます。県内でも有数の研修指定病院である当院での臨床研修が目されています。この実習から多くの先輩が当院に研修医として再び訪れていきます。卒業後、熱心な学生が当院を選んでくれることを期待しています。

TOPICS 09

秋田大学学生実習



今まで当院に長く勤務された方々の送別会が市内のホテルで行われました。皆さんの長年の努力がなければ当院の発展充実はなかったものと思います。本当にご苦労様でした。

TOPICS 10

退職者を送る会



最後の行事として病院大忘年会が盛大に開かれました。各部署からのアトラクションは日頃の練習の成果が十分に現れていました。新入医局員たちも日頃の業務を忘れて楽しんでいました。来る年への新たな出発を期待しています。

TOPICS 11

大忘年会

TOPICS

トピックス



TOPICS 12 初体験の市民ボート大会参加

真夏の太陽が反射する子吉川のみぶしさにひかれ、半端でない水嫌いの僕は、初めてボートに足を踏み入れた。

4月から同じ職場で働くことになった
怖い女監督に、「とりあえず見学に来て
みて」と誘われ見学に行っ たつもりだっ
た。監督は僕を見つけるなり「じゃ、コ
ン乗って」全身の血の気が引いていくの
を感じた。右足からゆっくりと運び「転
覆したら、沈没したらどうしよう」など
という僕の不安など気にもせず女監督は
「じゃ、行くよ」と艇を漕ぎ始めた。

真夏の太陽は僕の白い肌を赤くし、レ
ースでは心も熱くした。予選は好タイム
で通過、チームも「これはいけるぞ」と
いどんだ準々決勝、出だしは好調だった
のにみごと失速しチームの熱い夏は終わ
った。

テントの中では、師長さん
を始め応援してくれていたみ
んなが「ご苦労さん」「おしか
ったね」と励ましてくれ、豚
汁や焼きそば等を作ってくれ
た。よし、来年は頑張るぞ！



TOPICS 13 車椅子贈呈式

病院職員のOB会である由友会から車
椅子20台が贈呈されました。歩くのに困
難を感じる患者さんが増えている現状で、
新しい車椅子の贈呈は患者さんの移動の
助けとなると思います。由友会の皆さん
本当にありがとうございました。

いつの間にかそんな気持ちになっていた。
それにしても、当院の女子は毎年優勝チ
ームが出て凄い！

透析棟 金 辰徳



新型インフルエンザ

知識

についての

由利組合総合病院内科

朝倉健一

マスメディアで報道されているように、新型インフルエンザ出現の脅威が迫っています。国も県も対応策を決めていますが、実際に遭遇した場合の混乱は測りしれません。そこで、新型インフルエンザについて解説してみます。

Question 1

新型インフルエンザと通常のインフルエンザは、どこが違うのですか。

A 今、東南アジアを中心に流行しているトリインフルエンザが、ヒトへのタイプが変わったときに、新型インフルエンザと呼ばれるものになります。したがって、今のインフルエンザとは全く顔つきが変わることになります。

Question 2

新型インフルエンザは、A型、B型のいずれに属しますか。

A A型です。トリインフルエンザはすべてA型に属しますので、新型もA型になります。

Question 3

症状に違いはありますか。

A 症状は、通常のインフルエンザと同様といわれていて、急な高熱と関節痛、全身倦怠感で始まり、咽頭痛と咳は遅れて出現すると思われます。ただし、下痢などの消化器症状と一緒に起こることも予想されます。

Question 4

今のインフルエンザワクチンは効きますか。

A タイプが違うので、今のワクチンは効きません。ただし、ワクチンを打っておくと、症状が出たときに鑑別が容易になります。

Question 5

タミフルは本当に効きますか。

A 理論的には効果が期待できます。発症後、48時間以内であれば、ウイルス増殖を止めることができます。また、予防効果も期待できます。

Question 6

他に予防する方法はありますか。

A 通常のインフルエンザと同様に、外出時のマスク着用、うがい、手洗いをしてください。必要なとき以外は、人ごみや集会を避けることも効果があります。マスクだけでも相当な効果がありますので、是非、着用しましょう。

Question 7

新型インフルエンザが発生したことはどうやってわかるのですか。

A マスコミ報道に注目しましょう。国や県でも、発生状況を逐次、公開しています。インターネットでも知ることができます。

Question 8

新型インフルエンザへのワクチンはいつできますか。

A 新型インフルエンザのタイプが確定してからワクチン製造を始めますので、皆にゆきわたるまで半年かかると思われます。

Question 9

なぜ、新型インフルエンザで死者が多く出るのですか。

A 今のタイプと全く違うので、抗体というものを誰も持っていません。したがって、激しい症状が出て呼吸不全、心不全や二次感染などで死亡することが予想されます。

Question 10

新型インフルエンザが疑われる場合、どこに連絡すれば良いですか。

A 新型インフルエンザ発生と国が発表してからは、対応が県に任されています。SARSのときと同様に、保健所が連絡窓口になる予定です。詳しくは、県の新型インフルエンザ対応を参照してください。

子宮内膜症ってなに？

子

宮筋腫は知っているけれど、子宮内膜症ってなんだろう？子宮内膜症という名前は聞いたことがあるけど、どんな病気なんだろう？

今回は、この疑問について、お答えしたいと思います。

子宮内膜は子宮の内側を覆って

おり、妊娠すれば胎盤の一部となります。しかし、妊娠が成立しなければ、子宮から剥がれて出血をきたします。これが、月経（生理）です。この子宮内膜の細胞が、子宮の筋肉の中、お腹の中にある卵巣、内臓を包んでいる腹膜などにできてしまうのが子宮内膜症です。月経のたびに、子宮内膜細胞がある場所では出血がおこります。この出血がくせ者なのです。子宮筋や卵巣の中で出血すると、血液の出ていく所がありませんから、子宮や卵巣が腫れてきてしまうの

です。月経を繰り返しているうちに、子宮がだんだん大きくなってくるのです。そうすると、子宮筋腫と同じ様な症状が出現します。月経痛、過多月経、および貧血などです。

同じようにして、卵巣も腫れてきます。腫れた卵巣の中は、月経



産婦人科
部長
軽部 彰 宏

のたびに貯まってきた粘稠性の高い、茶色の血液で満たされています。これはチヨコレートが溶けたように見えるので、チヨコレート嚢腫と呼ばれます。

チヨコレート嚢腫が大きくなっていくと、やがて嚢腫の皮が破れてしまいます。そうすると、その中の血液がお腹の中に出てしまい、腹膜炎と同じような激痛を感じるようになります。この場合、緊急で開腹手術をして、適切な処置が必要となることもあります。幸いにして手術をのがれても、ひどい

下腹痛に悩まされます。この痛みはしばしば慢性化し、性交時に強い痛みを自覚したりするようになります。また、お腹の中の血液が吸収されていく過程で、骨盤の中にある臓器が癒着してしまいます。生殖年齢にある女性の子宮・卵巣・卵管などが癒着して不妊症になってしまつことも、子宮内膜症の重要な問題なのです。

子宮内膜症の治療には、薬物療法と手術療法があります。薬物療法の基本は、月経が起らないようにすることです。具体的には、ホルモン剤を投与することで、偽閉経状態にしてしまつのです。しかし、この治療法にはいろいろな問題（副作用）があります。偽閉経状態では、体内の女性ホルモンが少なくなってしまうので、更年期の症状が出てしまいます。排卵も抑制されてしまつので、妊娠もできません。また、長期間の偽閉経状態は、骨を脆くしてしまいます。ですから、長期間にわたる薬物治療は不可能と考えなくてはなりません。適度な間隔で月経を起こす必要があるのです。

一方、子宮内膜症の手術療法は、現在ではあまり行われなくなっています。手術では子宮内膜症を完全に治療することができないこと、薬物療法の方が症状の改善に効果的であること、などがその理由です。しかし、前述したチヨコレート嚢腫が大きくなってきた場合などは、手術の適応になります。

女性の社会進出が進んでいる現状からすると、少子化や出産の高年齢化には、今後さらに拍車がかかるものと想像されます。このことは、女性の月経回数が増えることを意味しています。ですから、今後、子宮内膜症に悩まされる女性の数も増加してくるでしょう。子宮内膜症は良性疾患ですが、進行していくことによって月経に関連した症状が悪化し、妊娠することに障害を与えてしまうことさえあります。残念ながら、現在の医療では、子宮内膜症を根治することはできません。しかし、その進行をコントロールすることは可能となりました。子宮内膜症を早期に発見し、適切な治療がおこなわれれば、月経の症状や不妊症に悩む女性の生活向上が期待できるようなったのです。

これを、今回のお話の結語にしたいと思います。

冠動脈バイパス術とは？

心

臓を栄養とする血管を冠動脈と言います。狭心症とは

は、冠動脈が狭くなり、心臓に血液不足が起こる病気です。典型的な症状は、労作時の胸の痛みや息

直径は2ミリのくらいですので、正確な手術操作のため、通常は心臓を一時的に停止させ、この間、人工心肺という機械で循環を維持しますが、人工心肺は非常に進歩していませんが、全身の重要臓器の一時的な機能不全、脳梗塞などが合併症として知られています。

せんで、身体にとっては、ダメージの少ない手術です。「高齢で手術に耐えられるだけの体力があるかどうか心配」「既に透析をうけていて腎機能は廃絶している」「すでに脳梗塞をおこしたことがある」など、今まででしたら手術を躊躇する患者さまでも、安

安全第一..冠動脈バイパス術

健康講座



心臓血管外科
科長 山田 泰之

オフポンプ冠動脈バイパス術とは？

切れなどです。内科的、つまりカテーテルなどによる治療が不可能な時は冠動脈バイパス術という外科手術を行います。狭くなった血管の代わりとなる血管を、新たに冠動脈につなぐ手術です。

例えばですと、エンジンは大丈夫なのだが、燃料パイプがつまりかけてエンジンを動かすことがありません。新しい燃料パイプを必要本数だけ追加する、というのが冠動脈バイパス術です。

手術は髪の毛よりも細かい糸を使い、縫ってつなぎます。冠動脈の

最近の手術手技の発達により、人工心肺を使うこと無く冠動脈バイパス術を行うことができるようになりまし。簡単にいえば、心臓を局所的に固定、停止させて、手術を行います。脳梗塞の原因が人工心肺で遮断鉗子を用いた心停止によることが多いことがわかってからは、スタビライザーという心臓局所固定器具を使用して手術を行います。人工心肺を使用しま

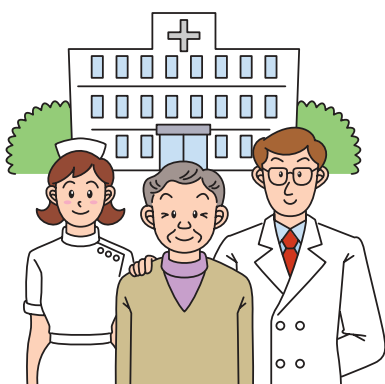
全に手術を受けていただくことができるようになりました。一番重い合併症である脳梗塞は、人工心肺を使用して心臓を停止させて手術した場合、5%くらいの頻度で発生してました。人工心肺を使用せず手術した場合、寝たきりなどの重症脳梗塞の発生はほとんど無くなりました。

完全血行再建 いろいろ

どうしても冠動脈バイパス術が難しい場合、循環器科の優れたカ

テーテル技術と組み合わせた治療も可能です。一番大事な冠動脈にオフポンプバイパス術を行い、残存した冠動脈狭窄をカテーテルでひろげる「ハイブリッド」療法も有効です。特にカテーテルのみ、または冠動脈バイパス術のみで完全な治療が不可能な場合、両者を組み合わせますと、安全にすべての冠動脈狭窄病変の治療が可能です。

当院では、循環器科と心臓血管外科がミーティングを行い、各患者さまに最も適した治療法を検討しています。お気軽に当院循環器科または心臓血管外科にご相談下さい。





今年の医局旅行は韓国でした。反日感情が高まる中の韓国でしたが、そのような雰囲気は全く感じず、むしろ8割がたで日本語が通じ、町の看板も日本語であふれていて、外国に來ているということさえも忘れそうでした。

今年の大雪で飛行機が定刻通りに出発できるか心配でしたが、秋田空港を定刻通りに出発して、3時間ほどで韓国に到着しました。韓国の冬は全く雪が降らず、気温は秋田と変わらないの

医局旅行体験記

豪快、韓国。

研修医 老松亜希子

ですが、風が強く、乾燥していて秋田よりもかなり寒く感じました。ソウルの街はイルミネーションがすばらしく、時に激しすぎるほどでした。木が焼けてしまうのではないかと心配になるほどに激しいものもありました。ソウルに着いた晩に、韓国名物の骨付きカルビを食べたのですが、やはり日本の焼肉とは違いますね、まず焼き方が豪快というか、長いカルビを山盛りに網に載せて、それから鉄で切っていました。

冷麺も糸状虫みたいで、盛岡冷麺とはかけ離れたものでした。韓国と言えば、焼肉と有名なのがエステです。韓国のエステは優雅なものではなく、汗だく・全裸で転がされるといった感じで、とにかく、韓国は豪快な国で、印象強く、思い出に残った旅でした。

最後にこのような素敵な旅を企画していただいた幹事の先生をはじめ、旅行に行かせてくださった先生方、ありがとうございました。





澄んだみずいろとまぶしい緑、
淡い紫が その中に溶け込んでいる。

病院基本理念

1. 快適で安全な人間尊重の医療を追求する
1. 多様なニーズに対応し包括的医療を実践する。
1. 中核病院としての設備を整え医療の進歩に対応する。
1. 自覚と誇りを持ち責任ある仕事を遂行する。

菊地副院長

研究奨励賞授与される



当院の菊地副院長は、日本農村医学会において研究奨励賞を授与されました。当地区の脳卒中の詳しい分析に関する発表が優れていると評価され贈られたものです。日頃の先生のひたむきな努力の成果であり、大変誇らしく思います。



編集後記

7月1日から、オーダーリングシステムが導入されました。受付から診察、会計まで一環したコンピュータシステムを使い、事務の効率化を目的としたシステムです。担当者二人から導入の経緯や苦労話を述べて

もらいました。また、長年苦勞して看護部をひっぱってこられた佐藤看護部長が勇退されました。懐かしい写真と思い出を披露していただきました。本当に長い間、ご苦勞でした。他にも、新人研修医が11人も入局するなどにぎやかな一年でした。今年も当院をよろしく願っています。